

## 令和2年度 第3回向日市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画策定委員会要点録

- 1 開催日時 令和2年11月20日（金）午後2時～午後3時30分
- 2 開催場所 向日市福祉会館 大会議室
- 3 出席委員 清家委員長、植田副委員長、繁本委員、高桑委員、小林委員、上崎委員  
乾委員、太田委員、今川委員、小賀野委員 以上 10名
- 4 傍聴者 0名
- 5 議事  
(1) こうふくプラン向日（第9次向日市高齢者福祉計画・第8期向日市介護保険事業計画）  
（案）について  
(2) その他（パブリックコメントについて）
- 6 内容  
議事（1） こうふくプラン向日（第9次向日市高齢者福祉計画・第8期向日市介護保険事業計画）（案）について

### 事務局

資料説明

### 委員

- ・P47から認知症関係の記載があるが、本人だけでなく介護者等の家族支援等についての記載もあり、それらが具体的に進められればよいと思った。
- ・個人的なことではあるが、認知症のはじまりかと思われる親族がいる。その親族がベッドから落ちて、自力で立てなかった際の介助方法がわからなかったことがあったため、介助者への支援についても記載があるのでよいと思った。

### 委員

- ・認知症への正しい知識などをコメントされるのは医者の場合が多く、医学的見地からのコメントになるが、介護は、介護する場合に何が重要かということが重要であり、難しい症状の場合には、実際のことを聞かないとわからない。認知症の高齢者に対する介護をされている方から介護の実態を発表してもらうことが必要ではないか。市でもそのような取り組みをするのがよいのではないか。

### 委員長

- ・家族介護等への支援、認知症についての医学的知識の提供だけではなく、介護面の提供という2つのポイントがあった。介護面からの提供では、ケアスタッフからの助言や経験者のスキルの提供も重要である。

### 事務局

- ・介護者は経験がない中での介護になり、知らない中で取組まれることから、時間もかかる。その辺りの支援をP47に記載しており、家族介護者のために経験者の声などが提供できる場を設けたいと考えている。具体的内容は、来年度以降になるが、考え方は計画に記載した。

### 副委員長

- ・本計画の基本的な方針は網羅されており、前回意見も含めて示されていると思う。
- ・今後、高齢化が更に進むことを考えると広く浅く網羅するのではなく、この計画の重点をどこに置くかということが重要ではないか。
- ・後期高齢者の問題、認知症対策、地域包括支援センターの課題等がある。包括支援センターは4年目を迎え市民に理解されてきたことから、多くの相談等がセンターに集まっているが、今後も増えることを考えると、今の3ヶ所での体制では、人材も財源も確保が難しいのではないかと考えている。人材、財源を増やさないと計画どおりに進めることは難しいのではないか。計画への記載は難しいかもしれないが、今後の具体的な取り組みを検討して欲しい。
- ・認知症については、住み慣れた地域で暮らしてもらうためには、地域全体でのネットワークを充実させないといけない。例えば、3つの中学校区があるが、登下校の中で、認

知症の人が地域におられるのであれば、声をかけてもらう等の方法もあるのではないかと。若い人にも気づいてもらいたい。そういう具体的施策を活かしていただきたい。

- ・全体的に計画は素晴らしいと思うが、方針を3年間で具体的にどのように進めるか伺いたい。

#### 事務局

- ・ネットワークをどのように実現していくのかということになる。そこを含めてP40に担い手づくりについて記載をした。急にネットワークに入ってもらおうというのは難しいので、そのきっかけ作りを3年間で実施、充実させていくことを考えており、それが地域包括ケアシステムの深化につながればと考えている。

#### 委員

- ・P52に介護人材の確保があるが、これは喫緊の課題である。介護就職相談会があるが、それではなかなか追いつかない。求職者からすると介護分野への就職は難しい。高校等に福祉の専門科があつて、若い時から学ぶ必要があり、その辺りも意識して取り組めればと思う。

#### 委員長

- ・令和3年から令和5年の計画ということで網羅的になっているが、新型コロナウイルス感染症等の影響もあり、進捗管理について中間評価が一定の時期に必要ではないか。

#### 事務局

- ・進行管理、評価はこの策定委員会で年1回実施することとしている。

#### 委員長

- ・年1回で全ての領域の進行管理、評価が可能なのか。

#### 事務局

- ・ご意見をお聴きしてすぐに反映することは難しいので、翌年度に対応する方針で年1回としている。

#### 委員

- ・一市民として、また、介護従事者としての意見だが、向日市は、市民と行政との距離が遠い気がする。長岡京市では官民での取組みが多く、行政の方も積極的に参加してもらっており、自分も講演会に呼ばれて講演した経験がある。
- ・講座等の案内があつても市民として目につくことが少ない。市民に行き渡らなければ無駄であるので、その辺りは民間と協働、協力して進めることを考えていただきたい。

#### 委員長

- ・取組みの広報、民間との協働が課題ではないか。

#### 事務局

- ・広報については検討していきたい。
- ・行政としては、地域資源やニーズの把握が重要だと考えている。行政だけが進めていても仕方がなく、地域のニーズに合ったことを進めることが重要なので、地域資源の見直しや整理をしていく中で、情報共有をしたい。また、今、あるものを情報共有するだけではなく、新たなニーズの拾い上げ、例えば、介護予防の底上げ等も重要だと考えている。それらを集めた中で協議会と連携をしていきたい。
- ・何かあればお聞きするというに加えて、行政からも発信して連携していきたい。

#### 委員

- ・長岡京市の異業種交流会で、認知症ケアの共有の必要性等が話題にあった中で、市職員の方が興味を持たれ、講演会に呼ばれたことがある。
- ・相談に来たら対応するというのではなく、積極的に動いていただきたい。

#### 委員長

- ・医療、介護はそれぞれの分野で固定化しているところがあるが、産官学民の取組みは課題であるので、進めていきたいところである。方法については、それぞれの地域の特性もあるので、他の自治体と同様ではなく、向日市の方法で実績を積み上げ、向日市モデルとしていけばと思う。今後、連携や広報の方法について産官学民で進めるために、協

議体で議論してキックオフすればと思う。

**委員**

- ・長岡京市の話題が出たが、長岡京市と向日市では組織の仕組みが異なっていると思う。長岡京市では部長レベルが保健師の資格を持っている。また、経験の長い方がおられるが、向日市の場合は、短期間で異動され、キャリアの積み上げや事業所との連携も難しいのではないかと。業務等が引き継げる仕組みを作ってもらいたい。

**委員**

- ・市役所が実施していることを、もっと市民にわかるようにして欲しい。具体的には、これまで毎年9月に体育館で敬老会をされていたが、今年は新型コロナウイルス感染症の影響で中止になった。また、最近になりマスク30枚、アルコール消毒液、高齢者のためのパンフレットを配布された。しかし、事前に案内がなかったため、不安の声もあった。事前の広報をお願いしたい。
- ・P14のテーマの中で、生きがいづくり、高齢者が安心して暮らせる体系の充実があるが、老人会では、今年の前半は、全てのスポーツ大会を中止し、ようやく9月から、健康維持のために開催したが、新型コロナウイルス感染症が再流行した場合、どうすればよいのかという意見も出ている。高齢者は外に出て、身体を動かさないと筋肉が衰え認知症も進行する。こういう時期だからこそ高齢者には、こういうことをして欲しいということ市から発信してほしい。

**委員**

- ・高齢介護課から健康体操を含めて新型コロナウイルス感染症への対策について、栄養士、保健師から話があった。がんばり体操等は非常に評判も良かったので、今後も来てもらいたいと思ったが、人気があり予定が入らないということであった。FM乙訓でがんばり体操が放送していることも知った。それが広まって、向日市ではラジオを聞いて体操することが広まれば、高齢者の健康維持や介護予防になるのではないかと考えた。

**委員長**

- ・委員の意見をまとめると、計画は立派にできているが、絵に描いた餅にならないように、実現の具体的方法、広報が重要であるということであった。特に、広報についてはどうか。

**事務局**

- ・マスク等の配布、がんばり体操等の事業をする中で、広報不足は反省している。様々な事業があっても、知ってもらわないと意味がないので、今は、HP、広報誌が中心であるが、今後は、市だけではなく情報発信をしてもらうところを探して連携するなど、様々な手法を考えていきたい。

**委員長**

- ・既存のサービスやイベントの情報を、どこから得ているか。また、誰がキーパーソンとなっているのか等の現状を調べた上で進める必要がある。ネット配信さえすればよいということではない。今後、このような会議の中でも広報のあり方を検討していくことは課題である。

**委員**

- ・向日市は情報公開の考え方が遅れている。情報公開コーナーはあるが、冊子の配架も乱雑に並んでいるだけである。
- ・いい計画ができて、そのままでは駄目でより効果的な広報が重要である。

**事務局**

- ・広報紙、HPからより多くの市民の皆様を知っていただきたいという思いはある。知ってもらわないと、事業をしても参加者がいないということもある。情報公開コーナーでの配架については、指摘いただいたことを担当課に伝えたい。

**委員長**

- ・その辺りは、行政の組織としての課題と思う。

**委員**

- ・P17、P41 に地域包括支援センターの相談支援件数の実績と目標があり、11,500 件となっている。平成 30 年は下回っており、昨年は増えているが、この目標を継続して掲げる必要があるのか。

**事務局**

- ・相談があるということは対応する必要があるということなので、これだけの目標を掲げている。

**委員**

- ・これは誰が達成すべき目標なのか。

**事務局**

- ・基本的に相談できる場所が、地域包括支援センターにあるということを周知したいと考えている。

**委員**

- ・目標というのは、それに向かっていくことだと思うが、誰が、どのような努力をするのか。地域包括支援センターの職員が相談を取ってくるのか。

**事務局**

- ・基本目標のところでは相談支援を挙げているのでわかりにくいと思われるが、相談の実績を踏まえ、今後もその程度の数になるだろうと想定しており、相談支援の充実という点から、このような記載になっている。

**委員**

- ・地域包括支援センターの職員が見たときに責任を感じないかと思った。

**委員**

- ・11,500 件という相談件数は、11,500 人の方が相談に来ているわけではなく、同じ人が重複して相談している結果である。重要なことは、どれだけ解決しているかであるが、実際は、中々解決していない。このような件数をセンターにいる 10 人程度の職員でこなすのは困難なので対策が必要である。

**委員長**

- ・地域包括支援センターの相談支援で件数の記載があると、数字が大きくて大変だ、となるが、これはノルマではないので、書き方や記載の有無も含めて要検討かと思う。
- ・実際の相談の解決については、運営の方でフィードバックしていく必要がある。

議事（2）その他（パブリックコメントについて）

**事務局**

資料説明

**委員長**

- ・全般を通してご意見があればお願いします。

**委員**

- ・市内の 1 事業所が新型コロナウイルス感染症によってひっ迫しており、その上、職員の単価が引き下げられている。また、利用者も介護事業所でサービスを使いにくくなっている。このような状況を改善できないものか。
- ・新型コロナウイルス感染症は、高齢者に重大な影響を及ぼしており、今年度、終息するとは思えないので、プランにもこの件を記載する必要があるのではないか。

**委員**

- ・パブリックコメントのために、この資料を各公民館、役所に置くのか。興味がある人が見るということか。

**事務局**

- ・計画書はファイリングして、所定の箇所に配置し、意見用紙で回答をしていただく。また、HP にも公開し、メールにて回答いただく。

#### 委員

- ・HPでの公開は理解できるが、何人の高齢者の方が見られるのか。もっとわかりやすくできないものか。
- ・公民館にも配置するということだが、新型コロナウイルス感染症で今は、高齢者が外出していないので、見る機会もないのではないか。
- ・この計画の内容は良いと思うが、本当に関心のある人は見るとしても、そうでない人には、もっとわかりやすいものにして、見る機会を増やす方法を取れないものか。

#### 委員長

- ・中々外出されない方に対して、今回の方法だと難しいのではないかという意見であるが、この点についてはどうか。即答は難しい場合は、後日でも回答をいただきたい。

#### 事務局

- ・パブリックコメントの実施方法については、市で決まっているので、方法を変えることは困難である。
- ・内容については、全体を見ていただく必要があるので、今回の内容でパブリックコメントすることを考えている。

#### 委員

- ・パブリックコメントは他の計画でもしているが、委員から意見があったように、コロナの関係もあるので、他の課でどのようにしているかも参考にして検討したい。

#### 委員長

- ・他の自治体では、直接触れることに問題があるとして、閲覧の制限をしているところもあるので、情報収集をしていただきたい。

#### 委員

- ・パブリックコメントについて、前回の会議で意見を出した。第7次の計画（前々回の計画）では、パブリックコメントの意見がゼロだったので、当会から2名が意見を出した。パブリックコメントについては、工夫しているということであったが、意見は当会の2名だけであった。また、その意見に対して、きちんとした回答が得られなかったため、今回は意見を出さないとなっている。
- ・パブリックコメントの配布については、老人会、会議所など民間の団体に配布する方法もあるのではないか。

#### 委員長

- ・まだ時間があるのでパブリックコメントの方法について検討していただきたい。

#### 委員

- ・広報の仕方について、例えば、医師会等に協力していただいて、医院に置いてもらう等の方法もあるのではないかと思ったが、市で方法が決められているということと、直接触れるということから、難しいのかと思った。

#### 委員長

- ・感染症対策の基準等も踏まえ、医師会や地域包括支援センター、サービス事業所等で可能かどうか検討いただければと思う。
- ・委員から新型コロナウイルス感染症について、プランに記載を追加するという点についてはどうか。

#### 委員

- ・新型コロナウイルス感染症の今後については誰もわからない。計画書に書き込む案はあるが、1年で終わった場合どうなるのかということもある。一方で、新型コロナウイルス感染症という特定のものではなく、感染症ということであれば、今後も出てくる可能性があるため、用語も含めて記載するかどうか、検討できるのではないか。

#### 委員長

- ・医学的な見地からの意見であるが、ワクチンについて議論もあって、新興感染症は今後も入ってくる可能性や発生する可能性がある。今回のことを教訓として、新型コロナウイルス感染症等ということで、記載すればと考えている。

**事務局**

- ・ここにどう記載するかは、検討したい。

**委員**

- ・新型コロナウイルス感染症等については、計画に入れていただきたい。

**委員**

- ・P29、介護予防の訪問看護で、計画値と実績値の差が大きいが、このあたりの数値はどう考えるのか、もう少し計画段階で検討が必要ではないか。

**事務局**

- ・ケアプランの点検をして適切なサービスができているかを充実させたいと考えている。

**副委員長**

- ・3年間の計画では、今後、高齢化が進み、医療と介護の連携、特に在宅介護が重要となってくる。乙訓圏域は、他の地域に比べて、行政と医師会、福祉担当がうまくいっていると聞く。乙訓医師会との連携、個人開業医との関係は地域医療を考える際にますます重要になると思っているが、その辺りの重要性和仕組みを作る側としての方向性について、記載をお願いしたい。

**事務局**

- ・医療、介護の連携については、勉強会を開始している。今年度は1回しか開催していないが、今後も進めていきたい。

閉会